



カミハタ養魚グループ

- 神畑養魚株式会社
- 株式会社キヨーリン
- キヨーリンフード工業株式会社



CORPORATE BROCHURE
— 会社案内 —

2023.07

大切なものを 守るために・・・。

私たち“カミハタ養魚グループ”は、地球の豊かな自然の恵みを受けて、事業を営んでいます。

創業以来、観賞魚の養殖・輸出入から飼料の開発・製造・国内外への販売、そしてあらゆる飼育・観賞環境の創造にいたるまで、常に高品質な製品・サービスをお届けできるように活動してまいりました。

人々に必要とされ、お役に立っているという誇りを胸に、お客様との様々なふれあいの中からビジネスの芽を見つけ可能性を広げていくことを心がけています。

「大切な生き物」を扱うからには、その“食生活”はもちろん“生活環境”的すべてにベストな提案をしたい」というのが、私たちの基本理念です。この理念を実現するために、そして、お客様のより強い信頼にお応えするために、社員一人ひとりの独創性と多様性を活かし、誠心誠意、目標に向けて努力を続けております。

国内3社・海外1社からなる“カミハタ養魚グループ”は、安心・安全なものづくりに力を注ぎ、人と魚が共に暮らす環境をトータルに創造・提案してまいります。



カミハタ養魚グループ
CEO 神 畑 道子





私たちがグループの総合力を発揮し、人と生き物が共に暮らす環境をトータルに提案します。

生き物 第一主義

カミハタ養魚グループは、観賞魚の魅力で心ゆたかな社会を実現するために、グループの強みを生かし『自然環境との共存』と『楽しい観賞魚飼育の提案』との調和を目指しています。



Business

事業内容

- 観賞魚を主体とする生き物(熱帯魚・海水魚・金魚・錦鯉・爬虫類・水草等)のブリード・輸入・卸
- 観賞魚を主体とする生き物のフードと飼育用品の開発・製造・卸・輸出入

神畠養魚株式会社

観賞魚を世界中から輸入

世界各地から輸入した観賞魚や水草、爬虫類など、数千種にもおよぶ生き物を皆さまの最寄りの店舗までお届けしています。錦鯉の養殖に始まり、絶滅の危機にある熱帯魚、カクレクマノミを始めとする海水魚などのブリーディングも行っています。

山崎養魚場 (1万坪33,000㎡)
元気に遊泳する自家繁殖の錦鯉幼魚

株式会社キヨーリン

観賞魚フードを国内および世界へ販売

観賞魚のフード®Hikariブランドを、日本国内および世界約70の国と地域へ販売しています。展示会、品評会などで高品質フード®Hikari商品をアピール。国内外に幅広い販売網を構築し、多くのお客様に商品供給できる体制を維持拡大しています。

関西物流センター
関東と関西の2つの物流センターで保管・発送九州工場
多様な設備を備える製造工場
(加西・福崎・九州工場)

キヨーリンフード工業株式会社

観賞魚フードを国内3工場で製造

多種多様な観賞魚の食性に合った最適なフードを提供するために、様々な形状のフードを製造する設備を備えています。また、より安心できる®Hikariブランドをお届けするために、国内全3工場でISO22000認証を取得しています。



共同研究施設「山崎研究所」

観賞魚の世界を科学的に追究

カミハタ養魚グループの総合研究機関として2001年に設立。世界で初めての商品を開発することを目指して、観賞魚と飼料の関係を科学的に検証し続けています。

低温水槽室
水槽本数445本
(低温・高温・変温水槽室)血液検査
基礎的な検査を収集



世界中の観賞魚を輸入。より良い状態で日本全国へ。

観賞魚を飼育する楽しみをより多くの人々に伝えるため、世界中から輸入した観賞魚を全国の販売店様へ状態良好お届けするとともに、希少種の保護・安定供給のためのブリーディングや、お客様のニーズに応える飼育器具の開発にも取り組んでいます。



神畠養魚株式会社 東京支店(熱帯魚温室)



南米 現地での熱帯魚の仕入れ



神畠養魚株式会社 東京支店(2007年移転)

世界中から金魚・熱帯魚・水草・海水魚・爬虫類・鳥・小動物など数千種にも及ぶ生体を輸入。輸送による生体の衰弱をすこしでも軽減させるため、日本の空輸窓口となる成田空港と関西空港にアクセスの良い千葉と姫路に生体温室を設置しています。

2007年2月に千葉の生体温室を移転拡大。これにより当社の総水槽本数は6,400本、飼育水量950トンに及び、世界トップクラスの規模を誇っています。常に、観賞魚の輸入・販売リーダーであるべく、新しい時代のニーズに適切に応えられるように、変革を恐れない積極的な姿勢で最新のシステムを導入しています。

人材と設備の連携で、長年にわたり蓄積した独自のノウハウを活かすことができ、生体を健康な状態へ回復させ、より良い状態で国内の販売店様へ出荷しています。

小売店様向けのオンライン受注サイト「カミハタビジネスオンライン」を2015年3月開設しました。当社の生体在庫や最新の入荷情報、小売店様紹介ページや、観賞魚の飼育方法など様々な情報を発信しています。一般のお客様は直接購入できませんが、当社の在庫状況を見て最寄りの店舗様へ観賞魚をリクエストして頂くという新たな流れが生まれました。カミハタビジネスオンラインは、こだわりを持って生体を探している個人愛好家にとって最新の生体入荷情報が入手できる革新的なコンテンツとなっており、観賞魚飼育の魅力向上に一役買っています。

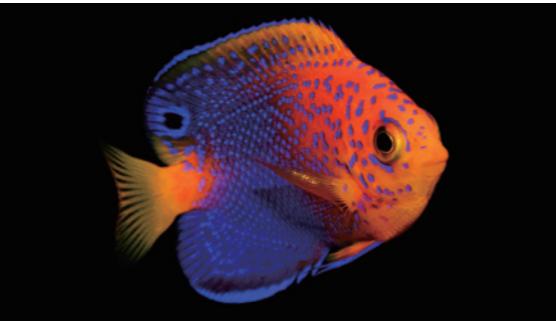
また、Facebook、Youtube、InstagramのSNSで入荷、イベント、器具の使用方法など様々な情報を発信しています。



カミハタビジネスオンライン(KBO)



カクレマノミのブリード



レンテンヤッコのブリード

事業ポイント

Business POINT



南九州養殖センター(2013年開設)



指宿養殖センター(2010年開設)

ブリード(養殖)への挑戦

今から半世紀以上前、当社ファウンダー(創業者)である神畠重三(～2017)は、日本の錦鯉を最初にヨーロッパ・アメリカへ紹介し、錦鯉が世界中で愛される礎を築きました。当社はその理念と信念を受け継ぎ、兵庫県宍粟市にある山崎養魚場において丈夫で安全な錦鯉の生産を続ける一方、2005年に本格的な熱帯魚のブリーディング部門を設立しました。先進国初となるこの試みは、希少種の保護、状態の良い生体の安定供給などを目的としています。2010年に温熱利用が可能な指宿養殖センター、2013年に温暖な天然海水が利用できる南九州養殖センターを開設し、地の利を活かして様々な生体のブリーディングに取り組んでいます。加えて、ブリーディングの過程で得られる数多くの知見は、飼料や飼育用品といった商品開発に反映されています。



2020年7月 現在取扱商品

飼育用品の開発

7,000種類もの生体を取り扱う当社だからこそわかる「生き物にとって本当に良い商品」のみを世界中から輸入。日本の環境に適した商品を開発、販売しています。

また、高い技術を持つ国内の他業種企業との商品の共同開発や、自社独自で開発したオリジナル商品の販売もおこなっています。生体を扱うノウハウを試験やアイデアに活かし、お客様の多彩なニーズに応えるべく日々研究開発を続けています。

2016年1月、観賞魚用外部式フィルターのパイオニアであるドイツのエーハイム社と日本総代理店契約を締結。外部式フィルターをはじめ、世界的シェアを誇るエーハイム製品の販売を開始しました。エーハイム社の高品質な商品と長年にわたり蓄積した当社の生き物に対する知見を組み合わせ、より細やかに、商品と観賞魚をクロスした飼育提案をおこなっていきます。



安心安全の信頼できるフードを国内および世界へ。

お客様が安心できる®Hikariブランドの構築と観賞魚飼育の普及活動を基に、観賞魚フード国内シェアNo.1*、世界約70の国と地域へ販売と高い支持をいただいている。安心安全のフードを提供するために、さらなる挑戦を続けていきます。

観賞魚フード国内シェアNo.1*

高品質な商品を全国の販売店に流通。発売40年を超えるロングセラーアイドル、ベビーゴールド、ミニペット、ひかりが有名です。近年では、お客様の飼育環境に配慮し、飼育水の汚れを抑えるプロバイオティクスフードのラインナップを強化しています。錦鯉のプレミアムフード「咲ひかり」は育成用、色揚用、増体用、低水温用、白地用、特級色揚など豊富なラインナップ(約60種類)で世界トップクラスの品評会出品魚の育成をサポートしています。



展示会や品評会などにブース出展を行い、直接お客様と接する事で商品提案・飼育相談を行い、新たな商品開発にも繋げます。



地元姫路近郊の小学校へのメダカ寄付や小学生対象の自由研究コンテスト、全国各地の販売店の店頭で金魚くじ等のイベントに協力しており、観賞魚の魅力を伝える活動を継続的に行ってています。



お客様サポート

Support

ホームページで観賞魚の飼育方法を詳しく説明、販売店の店頭に飼育方法のリーフレットを設置。お客様の楽しい観賞魚飼育をサポートしています。

また例年ぬいぐるみ等のノベルティグッズを作成し、お客様プレゼント企画を行っています。



飼育方法などの情報発信



事業ポイント

Business POINT

海外関連会社

®Hikariブランドの販売先は、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、南米と全世界へ広がっています。

その中でも最大の市場であるアメリカへの輸出は、30年以上も前から現地代理店であるHikari Sales USAを通じて行っていましたが、さらなる営業力の強化を目指して、2006年末に同社を「完全子会社」としました。

これによって、アメリカにおいても、製造から販売までを自社グループのみで一貫して管理する体制が整いました。キヨーリンの活動範囲は、新たなフィールドへ、ますますグローバルに展開しています。



Hikari Sales USA, Inc.

営業・販売・物流

キヨーリンは国内に6拠点を構え、海外約50ヶ国に代理店を設置し、®Hikariブランドを発信しています。国内トップブランドとしての商品基盤をもとに、世界的ブランドへと成長を続けています。

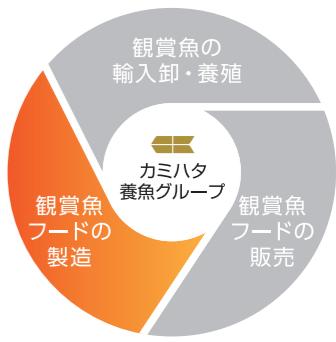
関東と関西に拠点をもつ物流センターでは、自社商品のみを取り扱い、HACCP方式に準ずる衛生管理を行い、商品性能に合わせて定温倉庫(15°C)と常温倉庫に保管しています。

また、移動ラックシステムと完全コンピュータシステムを導入し、確実に、よりスピーディーに商品をお届けする物流システムを構築しています。



物流センター





徹底した管理体制を構築し、生き物に最適なフードを開発・製造。

「 輝く未来をつくる」をスローガンに、安心・安全で魅力のある製品の開発と製造に励み、世界中に普及させることによって“ 輝く未来”づくりに貢献します。



国内3工場9機種で800種類を製造

多種多様な観賞魚の食性に応えるため独自の生産技術と、国内3工場9機種で様々なフードを製造しています。それぞれに特徴をもつ製造機によって、ますます高度化・多様化するユーザーニーズに応じた製造体制を構築しています。



フレーク状フード製造

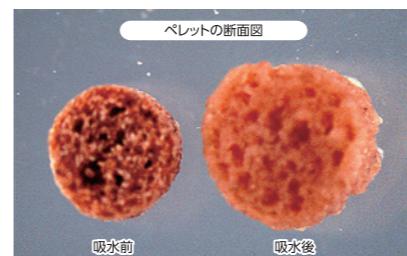
レトルトフード製造機

事業ポイント

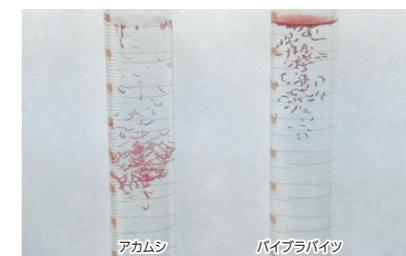
Business POINT

匠の技術で理想を形に

観賞魚と一言でいっても、様々な種類がいます。それぞれの食性に合ったベストな配合飼料をお届けするために、新しい製造技術の研究と商品開発を創業以来続けています。



大型魚の嗜好性は、口当たりも重要な要素の一つです。特にアロワナはソフト感が大事で、柔らかい粒のほうがフードを吐き出していくことがわかっているため、水を含むとスポンジのように柔らかくなるフードを開発。柔らかさだけではなく飼育水を汚しにくい物性も追及しています。



生きたエサを好む魚や、動いているものに興味を持つ魚のために、アカムシに似せた形状と、粒ごとにランダムなタイミングでゆっくりと沈むフードを開発。ゆらゆらと水中を漂いながら魚にアピールするだけでなく、水底に沈むまでの時間が長いことで食べ残しが少なくなります。



生きたエサしか食べないとされていたヒヨウモントカゲモドキのフード“レオパゲル”を開発しました。爬虫類業界初となるレトルト製法を取り入れることにより、高い嗜好性を実現。生きたエサに替わるフードとして爬虫類市場に新風を吹き込みました。

安定した高品質製品を世界に

原料の吟味から製造・在庫に至るまで国内の自社設備で行い、徹底した記録管理のもと、安心して使っていただける商品を製造しています。高品質の証として「 ブランド」を冠して世界中にお届けしています。



安定した高品質製品のために原料の品質にこだわります。一つの原料でも複数のグレードがあり、また産地や気候によっても成分が変わります。原料ごとに独自の基準を設け厳選することで、いつでも同じ品質・性能の商品を製造しています。



粒のサイズや熱処理など、工程ごとに管理ポイントを定めており、それら全てをクリアしたもののみ製品化されます。管理ポイントは全て記録保管し、実際の原料や製品サンプルも保管しているため、いつどこでどの原料から製造出荷したのかを速やかに追跡できます。



食の安全性を高めるため、食品安全マネジメントシステム「ISO22000」の認証を全3工場で取得。定期的に第三者機関による品質審査・製造環境審査の基、改善活動を継続しています。またお問い合わせ・ご意見はすみやかに共有し、品質・サービスの向上に役立てています。

このような管理体制により、毎年のように更新される海外の規制・基準に対応することができ、現在では世界約70の国と地域に輸出しています。

観賞魚の世界を科学的に追究。

これまで経験則で語られることの多かったアクアリウムの世界を科学的に検証し、フードの研究のみならず、飼育方法や魚病など観賞魚に関する新しい常識を作り出すことを目指しています。



高温水槽室 (低温・高温・変温水槽室 水槽本数445本)

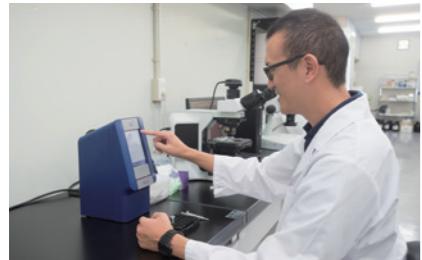


錦鯉試験池 (10トン池8本、50トン池1本、30トン池1本)

基礎研究

Basic research

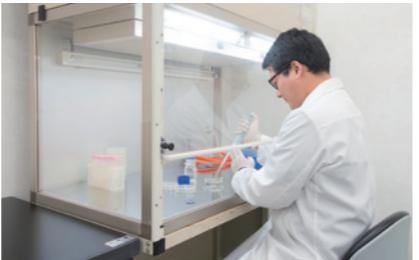
観賞魚を科学的に検証するために、健康、成長、美しさ、飼育環境などの基礎的な知見を収集。



血液の分析



顕微鏡による検査



ひかり菌の効果の検証

商品開発

Product development

基礎研究の知見を基に、科学的に検証された効果のある、新しい商品を開発。



試作フードの製造



色揚げ効果の検証



飼育水の分析 (水汚れの検証)



山崎研究所

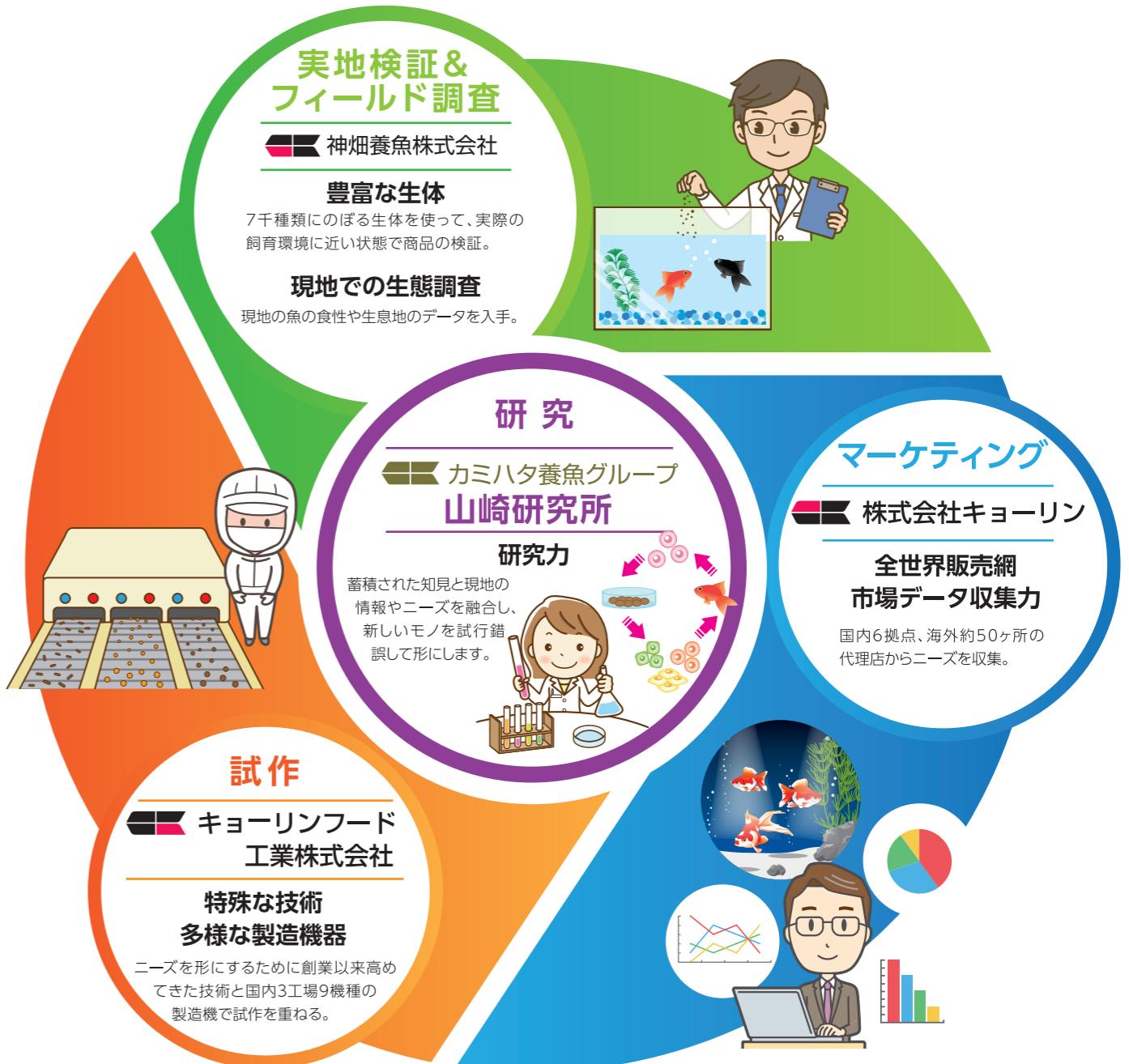
<https://www.kyorin-net.co.jp/yamasaki/>



商品開発

Product development

グループの力を結集して新しい商品を生みだす。



Company overview

グループ会社概要

神畠養魚株式会社



神畠養魚株式会社 東京支店

[本社]
〒670-0902 姫路市白銀町9番地
TEL. 079-288-1431 FAX. 079-282-8294

[東京支店]
〒262-0012 千葉市花見川区千種町292番地1号
TEL. 043-250-7721 FAX. 043-250-0475

[姫路支店]
〒670-0073 姫路市御立中3丁目3-20
TEL. 079-297-5420 FAX. 079-293-7898

[山崎養魚場]
〒671-2512 兵庫県宍粟市山崎町与位
TEL. 0790-62-5041 FAX. 0790-62-4411

[東京養殖センター]
〒262-0043 千葉市花見川区天戸町1330

[姫路養殖センター]
〒670-0073 姫路市御立中3丁目3-4-27

[指宿養殖センター]
〒891-0311 鹿児島県指宿市西方2658

[南九州養殖センター]
〒891-0704 南九州瀬戸町別府5205



カミハタ養魚グループ カミハタ探検隊



ファウンダー 神畠重三

株式会社キヨーリン



株式会社キヨーリン 東日本支店

[本社]
〒670-0902 姫路市白銀町9番地
TEL. 079-289-3171 FAX. 079-282-8294

[東日本支店]
〒262-0013 千葉市花見川区こてはし町1569-8

[信越営業所]
〒940-2105 新潟県長岡市緑町1-38-433 AD緑町ビル202

[中部営業所]
〒490-1224 愛知県あま市丹波屋敷44

[福崎工場]
〒679-2215 兵庫県神崎郡福崎町西治1101-10
TEL. 0790-24-5111 FAX. 0790-24-5113

[加西工場]
〒675-2105 兵庫県加西市下宮木町762
TEL. 0790-49-2260 FAX. 0790-49-2224

[九州工場]
〒833-0056 福岡県筑後市久富1343
TEL. 0942-52-0320 FAX. 0942-52-0307



キヨーリンフード工業株式会社



キヨーリンフード工業株式会社 福崎工場

[本社]
〒670-0902 姫路市白銀町9番地
TEL. 079-289-3171 FAX. 079-282-8294

[福崎工場]
〒679-2215 兵庫県神崎郡福崎町西治1101-10
TEL. 0790-24-5111 FAX. 0790-24-5113

[加西工場]
〒675-2105 兵庫県加西市下宮木町762
TEL. 0790-49-2260 FAX. 0790-49-2224

[九州工場]
〒833-0056 福岡県筑後市久富1343
TEL. 0942-52-0320 FAX. 0942-52-0307



History

沿革

1877年	・神畠藤左衛門、食用鯉の養殖で創業。
1946年	・神畠藤吉、姫路に鯉の卸店舗開店。
1961年	神畠養魚
1964年	神畠養魚
1968年	キヨーリン
1973年	神畠養魚
1979年	キヨーリンフード工業 キヨーリンフード工業
1984年	キヨーリン
1985年	神畠養魚
1989年	神畠養魚
1990年	キヨーリンフード工業
1993年	神畠養魚
1994年	カミハタ養魚グループ キヨーリン
1995年	キヨーリン
2000年	キヨーリンフード工業 カミハタ養魚グループ
2001年	カミハタ養魚グループ
2002年	キヨーリン
2005年	神畠養魚
2006年	キヨーリン
2007年	神畠養魚 キヨーリンフード工業
2010年	神畠養魚
2013年	神畠養魚
2014年	カミハタ養魚グループ
2015年	キヨーリンフード工業
2016年	キヨーリンフード工業
2017年	神畠養魚
2019年	キヨーリン
2020年	キヨーリンフード工業
2021年	キヨーリン 神畠養魚
2022年	キヨーリン



世界最大規模のペット用品展示会
インターペ(ドイツ)に1984年から18回連続
出展中(写真:2018年)



宇宙メダカ産卵の為の装置
(シャトル内撮影)
無重力でエサをついばむ宇宙メダカ



ビキルビキル養殖成功



福崎第一工場



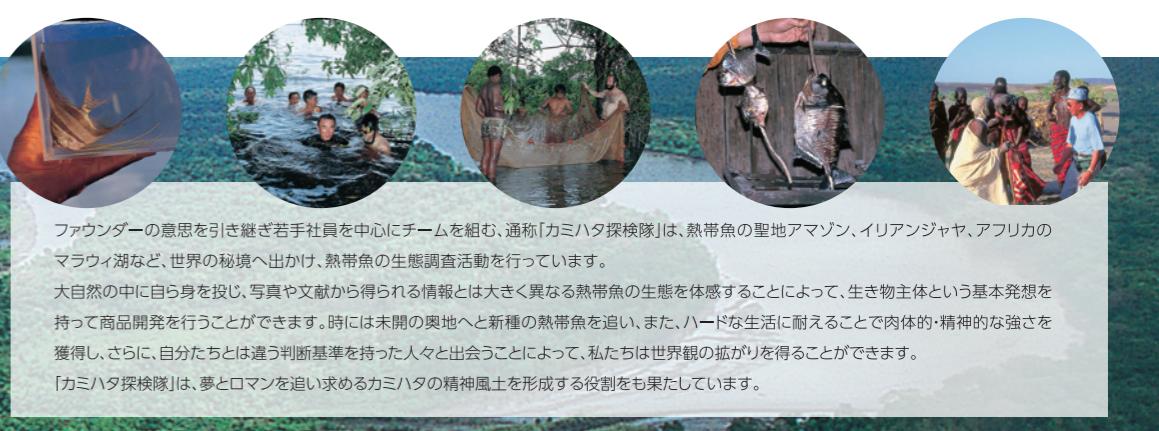
本社ビル

生き物と人間の共存の在り方を見つけるために…。

カミハタ養魚グループ カミハタ探検隊



ファウンダー 神畠重三



ファウンダーの意思を引き継ぎ若手社員を中心にチームを組む、通称「カミハタ探検隊」は、熱帯魚の聖地アマゾン、イランジャヤ、アフリカのマラウイ湖など、世界の秘境へ出かけ、熱帯魚の生態調査活動を行っています。

大自然の中に自ら身を投じ、写真や文献から得られる情報とは大きく異なる熱帯魚の生態を体感することによって、生き物主体という基本発想を持つ商品開発を行うことができます。時には未開の奥地へと新種の熱帯魚を追い、また、ハードな生活に耐えることで肉体的・精神的な強さを獲得し、さらに、自分たちとは違う判断基準を持った人々と出会うことによって、私たちは世界観の拡がりを得ることができます。

「カミハタ探検隊」は、夢と口曼を追いかめるカミハタの精神風土を形成する役割をも果たしています。